



# 鐵道道路の併進主義に就て

陸軍中將 和田 龜 治

國家の隆盛を致し公衆の福祉を増進するの途は固より一ならずと雖も交通の整備は其の最も緊要なる事項である。年を重ねるに従ひ本誌が活動することは誠に慶賀に堪へない。

交通機關が整備し各地の聯絡疎通全きを得れば著しく資源の開発産業の振興を促すのであるが東北部朝鮮の最近に於ける情況も其の一例である。

御承知の通り朝鮮の咸鏡北道地方は嘗ては道路粗悪で主要な幹線道路にさへも河川に橋梁を有

しなかつたのである。斯くの如き状態であつた爲めに地方の交通は極めて小範圍内にのみ行はれ住民開化の度は誠に氣の毒な状態であつた。然るに鐵道が敷設せられ道路が新設改善を加へられて河川に橋梁を見るやうになつてからは夫等の地方に於ては貧弱な従來の牛車に代ふるに其の二倍も三倍も搭載し得る牛馬車を使用せられんとする趨勢となり、従來主要市街及其附近に於て使用し得るに過ぎないで贅澤視せられて居た自動車も實用に供せられて次第に其數を増し地方の文化は進み住民の向學心は驚くばかりに盛となり生活の態様も一變化を來したのである。

波斯に於ける最近二十五年間の狀況も亦道路の狀態が經濟界を動かした例である。歐洲大戰前は波斯の交通路は極めて不完全で改善遅々として見るものもなかつたが最近に於ける運輸交通の情況は非常に變化した。就中主要貨物の輸送經路の變化した事は最も顯著な現象である。之れ主として印度、土耳其及露國の鐵道網が次第に波斯の境土に接近し其一部は既に波斯國內に進入する等隣接諸國の運輸界に生じた變化に起因するのであるが、之れと關聯して波斯國內に鐵道を敷設せんとするの議が盛に行はれ鐵道敷設の前提として先づ、ブォードベンツ等の新式自動車が出現して従來の運輸機關たる駱駝を驅逐し以て國內重要諸點を飛行機を以て連絡せんとする案などの提唱せられるやうになつた結果である。

波斯市場に於ける重要競争國は勿論露英兩國であるが以前波斯の南部より北部及中央地に通ずる交通路——主として英國の開發築設に係る——は北方よりの交通路——主として露人の力による——に比して遙に不便で距離も遠く従つて運賃も高價であつたが爲めに彼の有名な勢力範圍の分

界協約(一九〇七年)にも拘らず露國をして北部及中央波斯の市場を獨占せしめたのである。然るに波斯の中部及北部地方より露國境へ通ずる道路は依然として舊態を維持するのみでなく破壊した個所が少からずあるに反して、歐洲大戰の結果バクダット鐵道の南部區域が英國の手に歸し斯波市場に於ける英國の地位が有利となり、英國は波斯市場爭奪の主要條件として運輸交通の改善に著意し波斯の南部より内部へ通ずる道路は天然の障壁を排除して頻りに改善せらるるに至り波斯の市場が需給の變態的難局より脱せんとする希望と相俟つて、露國と波斯との貿易が次第に杜絶し爾來英國が露國に代るに至つたのである。之等は交通路の状態が經濟界を動かした顯著な事例であつて道路改良の切要を感じしめるのである。交通機關の發達の爲めに鐵道の開發を必要とすることは勿論であるが輓近に於ける自動車の發達は陸上交通機關に一大革命を來したのであるから時代を劃して鐵路道路併進の主義を進めて鐵道の過重な又不經濟な負擔を緩和することが有利であつて交通施設が鐵道偏重の傾向にあることを速に改めて道路の施設改良に意を注ぐべきであると思ふ。鐵道爭議に逢會し或は戰時災變に方つて停車場を爆撃破壊せられて鐵道の運行を妨げられたやうな場合に思を及ぼせば道路改良が一日も忽にすべからざることを知り得るであらう。茲に聊か鐵道と道路との併進主義を述べて参考に供する所以である。